# 令和６年度地域学校協働活動推進員パワーアップ講座②実施報告

実施日：令和 6（2024）年 12 月 19 日

◎　当研修では、社会に開かれた教育課程を実現するために、地域と学校をつなぐ要となる統括的な地域学校協働活動推進員として期待される役割について理解し、地域学校協働活動の推進に必要な知識や技術の習得を図ります。第２回は１６名の方が参加くださいました。

## ○　講話・演習「社会に開かれた教育課程の実現を目指した地域学校協働活動の推進に向けて」

**国立教育政策研究所初等中等教育研究部　部長　藤原　文雄　氏**

教育行政学が専門であり、「学校と社会をつなぐ！」の著者である藤原氏から、学校を理解した上で地域学校協働活動推進員として何をすべきか、何ができるかということについてお話しいただきました。栃木県教育育成指標や教育振興基本計画、学習指導要領、教員勤務実態調査についての説明がありました。教育振興基本計画では、生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点も大切であるという話がありました。学校は福祉の砦であるので、ボランティアの方による「生まれてきてくれてありがとう」という眼差し、評価しない眼差しにより、子どもたちが生きるためのエンジンを大きくしてほしいという藤原氏の思いが述べられました。学習指導要領で目指すことでは、育成を目指す資質・能力が３つの柱で整理されていることや、カリキュラム・マネジメントについての説明がありました。藤原氏からは「学校には PDCA サイクルがあるので、それにのることが大切」「学校のリズムをつかむために、行事日程表をゲットしよう」、「地域の思い、学校の思いをドッキングさせることを考えてほしい」などの考えが伝えられました。

次に、社会に開かれた教育課程の実現に向けてのお話があり、岩手県大槌町での取組が紹介されました。地域学校協働活動推進員が発掘した地域人材（商店経営者、漁師等）が講師となり、地域産業に関する学習が実施された例や、町内の約 70 事業者の協力により、キャリア教育の一環として職場体験学習が実現した例が示されました。

最後に藤原氏から、子どもたちは人との関わりを通じて幸せを感じることができるため、愛情をたっぷりと注ぐような言葉がけを増やしてほしいとのアドバイスがありました。学校と連携を図って活動しているコーディネーターの方々にとって、学校が置かれている現状について知り、自分たちの立場で今後何ができるか改めて考える時間となりました。

## ★　受講者の声　★

- 学校のカリキュラムをよく調べて、外部人材が生かせるところがないか考えてみたいと思います。
- 学校の実情も改めてよく分かりました。学校と地域それぞれの思いを大切にしながら、互いによい関係を築けるような支援を続けたいと思います。
- 人間関係の中で、幸せを感じるという点がとても印象に残りました。私たちの活動も少しは役に立っているのかなと感じました。
- 学校側の置かれている背景や学校及び教師が担う業務の適正化についてなど、学校側からの意見、問題提起が新鮮でした。
- 学校内の PDCA サイクルの流れにのって、学校との連携を図っていきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206　　e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp